

A. 主な動き

1. 内政

・24日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、2013年初めまでにEUとの査証免除協定を締結する旨の公約を果たせなかったとしフィラト首相に辞表を提出。一方、同日、フィラト首相は、同辞表を受理する意向はない旨発言。

・2日、フィラト首相は、モルドバの2013年の優先課題は、交通インフラ、農業及び保健分野の改革の遂行等である旨発言。

2. 経済

・28日、モルドバ政府は、財政安定化に関する国家委員会において、今夏の干ばつにも関わらず、農業部門において十分な貯蓄があるとし、干ばつは農業に深刻な影響を与えたが、鈍化した経済成長となることが予測され、ユーロ圏における安定化、米国やロシア経済のポジティブな発展が見られるのであれば、2013年の前半から輸出は増加するだろう旨発表。

3. 外政

・27日、議会は、6月26日に署名されたEUとの農産物及び食料品の原産地証明に関する協定を批准。

・27日、フィラト首相は、モルドバは公式にロシアから関税同盟加盟に関する提案を受けていない旨発言。

・2日、フィラト首相は、2013年はEUとの連合協定への署名がなされる年と期待される旨発言。

4. 沿ドニエストル

・22日、フィラト首相は、沿ドニエストルはモルドバの構成員である以外に同地域の将来はありえない旨発言。

・24日、マリヌツァ国防相は、沿ドニエストルに駐留する平和維持軍は分離主義体制の保証人であり、紛争の解決ではなく、否定的に作用している旨発言。

・25日、シュタンスキ「外相」は、モスクワにおいてカラージン露外務次官及びグバレフ沿ドニエストル問題担当露大使と会談し、沿ドニエストル問題解決の現状及び2013年2月のリヴィウにおける次回公式会合に向けた準備状況等に関し協議。

・27日、ティモフティ大統領は、沿ドニエストル紛争解決はモルドバ以上にロシアに依存している旨、また、沿ドニエストルの代表者と会談を実施する必要性は見当たらない旨発言。

5. 防衛

・26日、マリヌツァ国防相は、新たな軍事ブロックへの加入は検討していないものの、モルドバにとってNATOとの協力強化は欧州統合という文脈から必要不可欠である旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)